

## 細江カトリック教会だより 4月

〒750-0016 下関市細江町 1-9-15

☎083-222-2294 ☎083-222-0970

広島教区テーマ：平和の使徒となろう

チャレンジ新しい福音宣教 ～わたしをお使いください～

—家庭へのチャレンジ—

## 復活祭の喜び

主のご復活おめでとうございます。主キリストは死に打ち勝ち、新しいいのちに立ちあがられました。私たちも主キリストによって死の枷から解かれ、永遠のいのちに招かれています。

この復活祭に、細江教会では二人の方の洗礼と三人の方の堅信(そのうち二人は他教会からの改宗)を祝います。新しいメンバーが加わり、教会はまた新しい力をいただきます。

そして復活祭とともに、新年度が始まります。新しい学校、学年、職場に進まれる方に、心からお喜び申しあげます。栄光の主から、新しい出発のために豊かな祝福がありますように。

もう一つの喜びは、この下関ブロックにイエズス会のボニー神父が助任司祭として赴任してきたことです。39歳の若手で、きっと私たちの共同体に新たな霊性と活気をもたらしてくれるでしょう。

天使幼稚園も、新制度が始まり、朝7時半から夕6時半まで開園し、保育の必要な子どもたちを預かります。新任の教職員として常勤3人、非常勤4人が加わります。子どもたちの数も増えて、ますますにぎやかになることでしょう。皆さまの応援をお願いします。

今年の四旬節には、「よりよい教会づくりアンケート」を実施しました。教会についての振り返りの機会となることを願って行なったものですが、ご協力をありがとうございました。後日、集計結果を発表させていただく予定です。

アンケートで嬉しかったことの一つは、毎日曜日のミサが信仰生活に励ましと力となると、ほとんどの方が考えておられることです。ただ司祭の司式と説教だけでなく、これからも信徒の方々の朗読と典礼への奉仕を一層充

実させて、皆のための恵み深いミサにしていきたいと思えます。

その反面、若者への信仰の継承のために皆が協力しているとは思わない、という反省も目立ちます。若者が育たなければ、その共同体に未来はありません。何とかして、教会に若者たちの場を作りたいものです。皆で方策を考えましょう。

私にとっていささか気になったのは、アンケートに答えた人が38人だけだったことです。よりよい教会づくりを考えようとする人は、38人しかいないのでしょうか。それとも、38人もいる、と言うべきなのでしょう。アブラハムがゾドムの町のために神にとりなす物語(創世記 18・16-33)を思い出します。「もし正しい者が10人いたとしたら、その10人のために町を滅ぼさない」と神が言われます。教会は神がそれを使って救いのわざをなさる道具なので、この38人の「残りの者」でも十分なのかもしれません。

復活の主が私たち一人ひとりに、そして共同体に、新しいいのちの喜びと力をお与えくださいますように。

百瀬 文晃 神父



\*ロシア、イコン1500年頃

## 世界祈禱集会 3/6

## 地区だより

## ～家庭へのチャレンジ～

二十余年り前、同級生に「あなたは神を信じますか？」と問われた事があります。

その頃の私は即座に「そんなもの信じません！」と言い切ったのです。

結婚してから自営業だったので四人の子育てと仕事、家事と、いつも何かに追いつてられるような日々を送っていました。苦しいときの神頼みで、都合のいい時だけ何か大いなるものに手を合わせるという一般的日本人の典型のような暮らしでした。

学生時代に聞きかじったキリスト教に対しても、マリアさまの処女懐胎とか、隣人愛を説きながら宗教戦争を起こす等々、納得のいかないことばかりで、信仰とは程遠い道を歩んできたのです。

そして、自分は自分の力でここまで頑張ってきたのだと思いがあって生きていました。

何と傲慢だったのでしょうか！！

何につけ気づくことの遅い私が、古稀を過ぎ、ようやく信仰の道を歩むことができたのは、神様がじっと待っていて下さったおかげだと感謝しています。

子どもたちは私の受洗に反対こそしないもののあまり興味は示さず、家庭の中でどう福音を伝えたらいいのか、正直わかりません。ただ私自身が喜びと感謝と祈りの生活を続けていけば・・・実はこれが一番難しいのですが・・・いつの日か時がきて何かを感じてくれるのではないかと、消極的ですがそんなふうに願っています。

知らぬ間に 主に招かれて 今がある

細江地区 上田 洋子



2015世界祈禱日は、3月6日に日本基督教団長府教会で開かれました。細江教会からは6名の参加、全体では125名でした。

1887年(明治19年)、アメリカの女性たちが移住者や抑圧されている人々へ心を寄せて祈る日を定め、日本では1932年(昭和7年)から始まりました。祈禱の式文作成は各国巡回で、今回はカリブ海のバハマ国でした。福島県とほぼ同じ面積、アフリカ人奴隷の子孫が85%を占め、国鳥はピンクのフラミンゴです。ポスター、式文の表紙絵はフラミンゴと人の足でした。

毎年、たくさんの歌と言葉で構成されたお祈りの集いですが、今年は伴奏にカスタネット、たいこ、フルート、ピアノ(オルガンも)と楽しく皆で祈りました。その歌のひとつはカトリック典礼聖歌26番「すべての国よ神をたたえ」でした。

バハマの選んだ福音はヨハネ13章1～17、洗足の箇所でした。

この日、フルートを奏でられた牧師は「バハマはアフリカからの奴隷のプランテーションでの過酷な行動により400万人の奴隷が40万人に減ったという歴史もある国であり、キリスト教の伝道によりヨーロッパの思想、考えを知り自由の精神を学んだバハマの人々は今なお理想を持つゆえの苦しみ、なげきを経験しているのではないか。

神の力は弱さとして働く。そうであれば弱さを恥じるべきではない。人間の救いのためにイエスを送られ、密やかな力が主から託され、人種の違いを超え身を低くして、足を洗う。人類の平和は足を洗うことから始まる」と語られました。

アフリカをルーツとする人々特有の明るさがたいこやカスタネットの響きと共に満ち溢れたひとときでした。次回は日本福音ルーテル下関教会で開催予定です。

白濱 敏子

## 四旬節黙想会 3/8

「御受難を伝える」 中村 克徳 神父



サラリーマン生活（8年）を経て25歳で受洗。33歳で「清貧、従順、貞潔」+「御受難を伝える」、御受難会に入会。百瀬神父から上智大学で指導を受け、2005年に叙階。今は、宗像の御受難会「福岡黙想の家」を運営されています。黒い修道服と白字で十字架 JESU XRI PASSIO（イエス・キリストの受難）と書いたハート形のバッジ、という会の正装姿でのご指導でした。

叙階の翌年のエジプト巡礼で聖マルコの足跡、聖家族のゆかりの地を訪ね、遺物が大切にされていることから、人間は五感で感じるものが、信仰の証しに必要であったと実感したこと、途中でお腹をこわしシナイ山に行けなくなって1人残されたこと、司祭1年目で有頂天になっていたこと、多くの人のおかげで今の自分があること、同時に多くの人を傷つけて申し訳なかったこと。内省し、ロザリオを取って祈り、回復したご自分の出エジプト体験を話されました。

「イエスの受難」と弟子たちの離散の話。神が人間を大事にしてくださり、弱さを持った真の人間としてイエスを送ってくださった。逃げていた弟子たちが「十字架を背負って従いなさい」、「互いに足を洗い合いなさい」、見返りを求めない神の愛の意味がわかったのは、復活の主に出会ってからでした。

自分の十字架を拒絶しないで背負っていると、いつの間にか十字架は終わっている。

過中にはどうも思えなかった神のお陰、信仰の恵みがそこにあったことを知るのです。

四旬節は救いの神秘により良く与るための期間、神の視点を求め、祈り、「できること何か」を行うときと心を新たにしました。

菊野 清一

## ＊日曜学校黙想会＊



今年、日曜学校を卒業した

坂下慶八郎君と道下亜美ちゃん

これからも学生会として協力してくださいね。卒業おめでとう！

## 下関ブロック侍者会 3/15

長府教会において下関ブロック侍者会を開きました。大人と子どもが一緒に集まって行う侍者会は私の記憶の中では、初めてのことだったと思います。最近はこの教会も大人の侍者が増えました。

場所は長府教会、時間は9:30~16:00、詳細は日曜学校リーダーまでというアバウトなポスターの呼びかけに、訳のわからぬまま参加された方もいらっしゃるかと思えます。大人の方の参加が思いのほか有り、30名近い方が初心に返り、侍者の基本動作を学びました。

日曜学校のリーダーを、自分の子どもが卒業するのと同時期に引退しましたが、山口・島根少年の集いの活動には微力ながらお手伝いさせていただいておりました。

中井神父様がこちらにいらっしゃった頃、地区大会と並行して「子ども大会」をすることになり、青年たちにも関わってもらったの

をきっかけに、信仰のバトンをつなげていけたらいいな・・・と思い、2013年に下関ブロック日曜学校リーダーの集いを復活させ、夏のお泊り会、秋の遠足を青年と一緒に企画しました。2014年は、「ふっこうのかけ橋」に参加させていただきました。今回の侍者会も、どうなるか不安でしたが、子どもの時からずーっといろいろな奉仕をしている彦島教会の福永さん、細江教会の白浜幸一さん親子をはじめ、いろんな方の協力を得て、無事に終わることができ、とても感謝しています。

彦島教会 真浦 美千代



＊アルティリョ神父が子どもたちにもわかりやすく説明



＊彦島教会の福永さんが実技を通して指導

・・・侍者会に参加して・・・

ミサの間、信者は祭壇に向かって祈っています。侍者は司祭と共に祭壇上で行動しますので、自分の姿や動作が祈りの妨げにならないよう祈りの姿勢をたもつように心がけること。典礼を理解し、司祭の動きや指示に従って、自然体で動けるよう・・・これからも失敗を恐れず侍者の奉仕にチャレンジしていこうと思います。

近藤 豊之

ようこそ！細江教会へ

下

関の地へ赴任された

ジェームス・ボニー神父さま

＊自己紹介＊



2006年インドから参りまして、昨年東京で神学の勉強を終え今年から細江教会に助任司祭として働くことになっているボニー・ジェームス神父と申します。出身は南インドのケララ州です。家族が5人家族で父と母と妹と弟がいます。地元の大学で勉強を終えて2000年にイエズス会に入会しました。修練また司祭課程に必要な哲学の勉強はインドで終えて、日本での宣教活動に興味を持つようになりました。日本ですでに宣教師として働いている先輩のインド人のイエズス会員から日本のミッションについて知ったことが日本に行くきっかけでした。

来日してから1年間日本語を学び、また2年間中間期生として教えることもありましたが、日本に来てから8年目になりますが、たくさんの良い出会いがあり、その一人一人の支えのおかげでここまでくることができたのです。これから細江教会でもたくさんの良い出会いができるように助任司祭としての任務を果たしていきたいと思いますので皆さんどうぞよろしく願いいたします。

Bony James SJ

